

新型コロナウイルス感染症の影響による医療機関の経営状況等に関する調査結果について

〔 令和 2 年 10 月 19 日 〕
〔 医 務 課 〕

1 趣旨

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、患者の受診控え等により、多くの医療機関において経営状況の悪化が懸念されている。現在、医療機関が直面している状況や運営・経営上の課題を把握するため、次のとおりアンケート調査を行った。

2 アンケートの概要

調査期間	令和 2 年 8 月 21 日 (金) ～ 9 月 4 日 (金)
実施方法 〔回答率〕	1,037 施設 (病院 (全施設), 診療所 (無作為抽出)) [40.2%] 内訳: 病院 237 施設, 診療所 800 施設 (医科 500, 歯科 300)
調査項目	経営状況 [※] , 感染防止対策等

※「経営状況が悪化」かつ「採算割れしている」と回答した医療機関 90 施設 (病院 43, 診療所 47) を対象に、今年と前年 4～8 月の「医業収益」「医業費用」について追加アンケート調査を実施。(令和 2 年 10 月。回答率 (病院 76.7%, 診療所 48.9%))

3 主な調査結果

(1) 平常時と比較した経営状況 (令和 2 年 8 月)

・コロナ禍において約 8 割の医療機関の経営状況は悪化しており、そのうち 4 割は採算割れの状況になっている。また、医業収益は、4、5 月の減少幅が大きい。

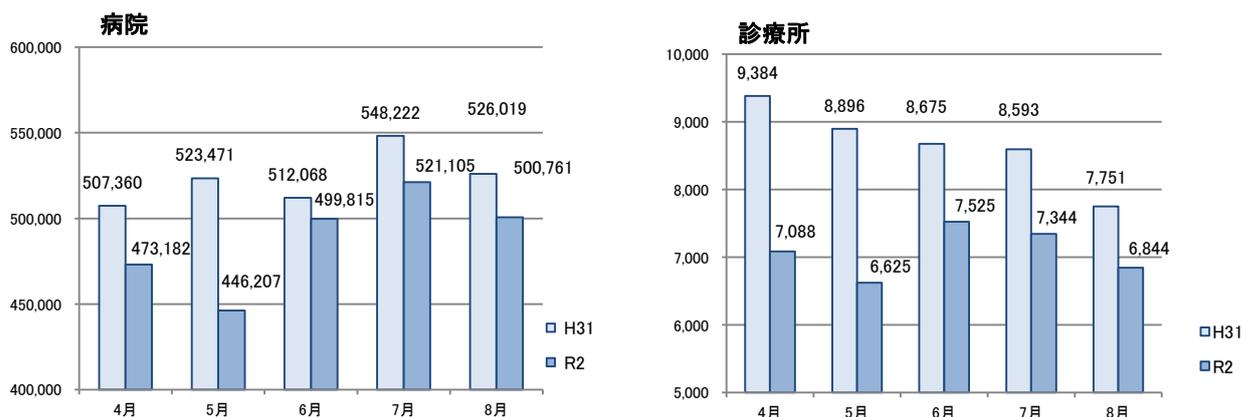
<表 1: 病院及び診療所の平常時と比較した経営状況> n=413 (病院 n:134, 診療所 n:279)



<表 2-1: 経営状況が悪化している病院及び診療所の収益状況> n=323 (病院 n:111, 診療所 n:212)



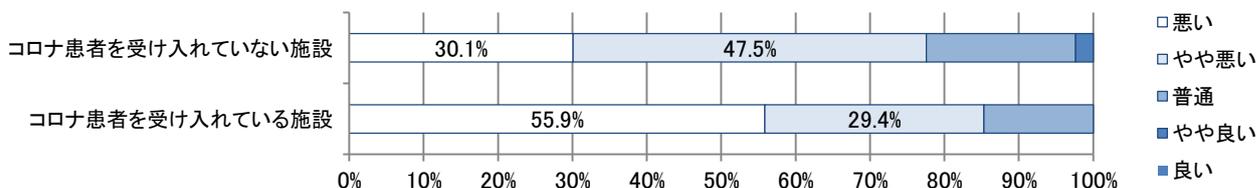
<表 2-2: 経営状況が悪化している医療機関の 1 施設あたりの医業収益 (千円) n=56 (病院 n:33 診療所 n:23)



(2) 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っている医療機関の経営状況

- ・新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っている医療機関の約9割は経営状況が悪化している。

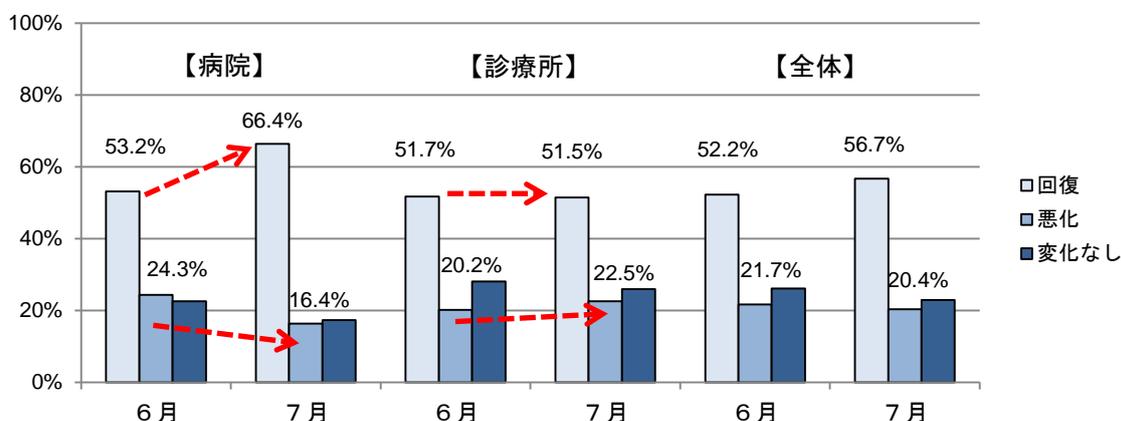
<表 3: 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っている医療機関の平常時と比較した経営状況>



(3) 医業収益の回復状況（4月との比較）

- ・経営状況が悪化していると回答した医療機関のうち、病院の収益は回復傾向にあるが、診療所については、回復傾向は鈍化しているため、今後の動向を注視する必要がある。

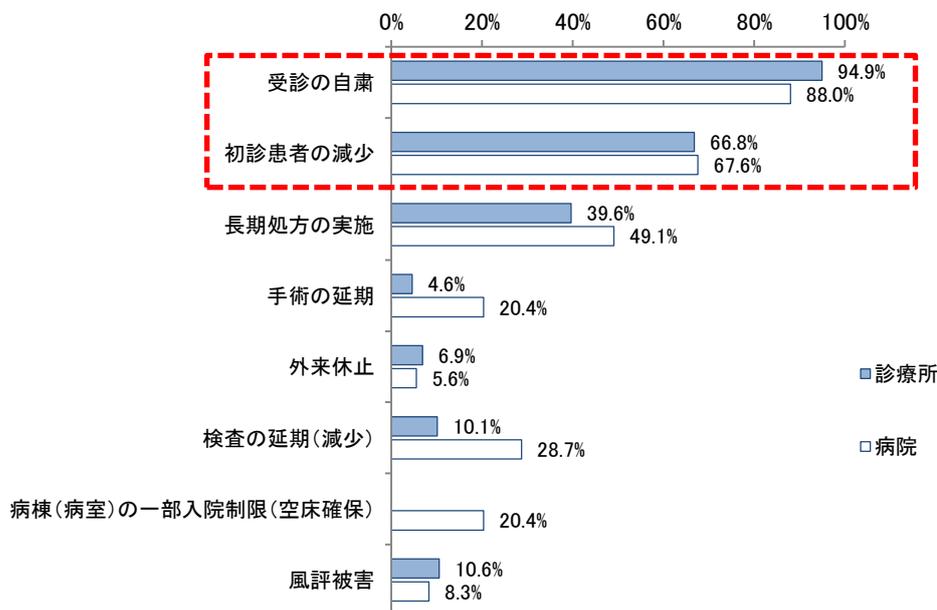
<表 4: 医業収益の回復状況(4月との比較)> n=318(病院 n:111 診療所 n:207)



(4) 経営悪化の要因

- ・コロナ禍で経営状況が悪化している主な要因は「受診の自粛」, 「初診患者の減少」である。

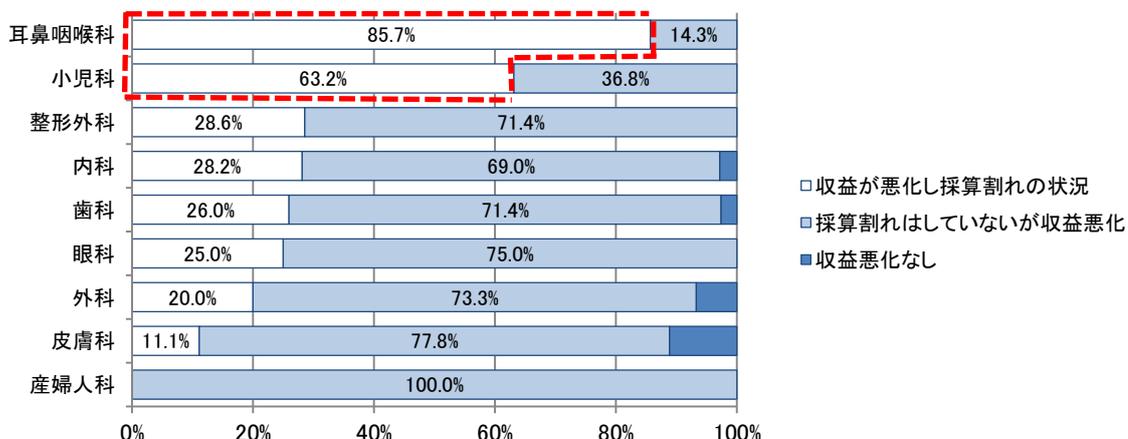
<表 5: 経営悪化の原因> n=325 (病院 n:108, 診療所 n:217)



(5) 診療所の診療科別収益状況

・経営状況が悪化していると回答した診療所のうち、診療科別では、耳鼻咽喉科の8割強、小児科の6割強の収益状況が採算割れとなっており、特に影響を受けている。

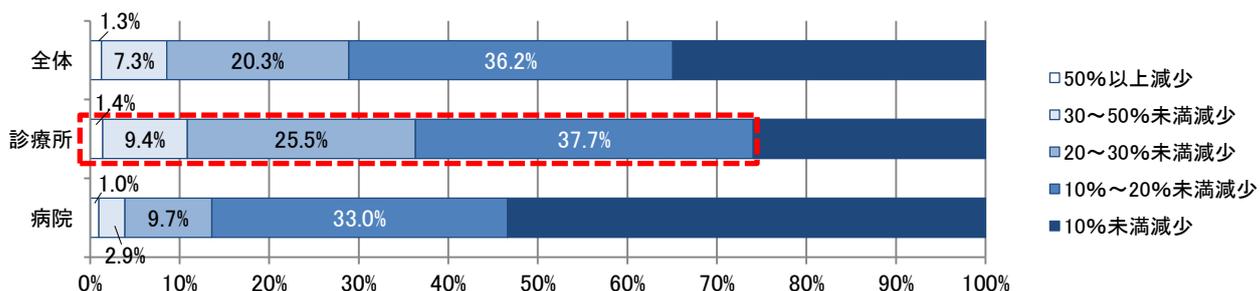
<表 6: 経営状況が悪化している診療所の診療科別収益状況> n=275(複数の診療科を標榜している場合、重複あり)



(6) 外来患者の収入減少率 (対前年: 7月)

・診療所のような小規模な医療機関ほど収入の減少割合が大きくなっている。

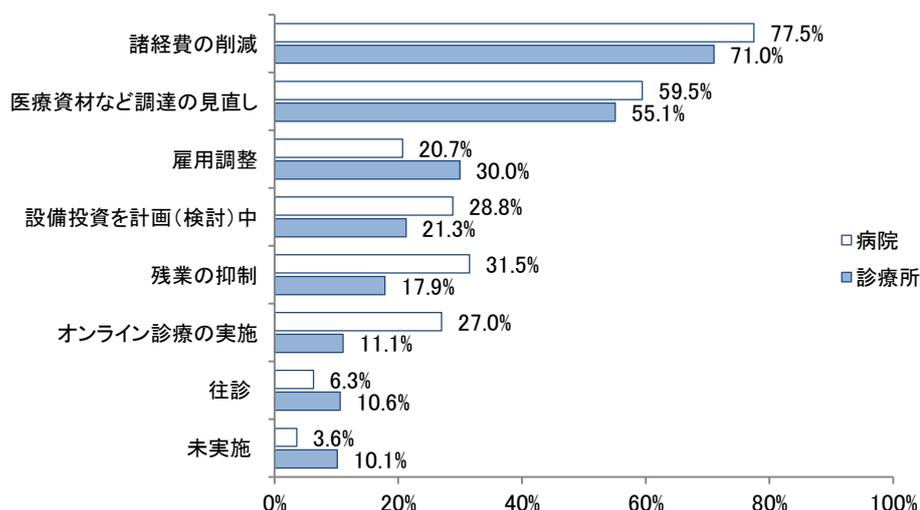
<表 7: 患者数が減少している病院及び診療所の外来収入減少率> n=315(病院 n:103, 診療所 n:212)



(7) 医療機関が取り組む経営改善策

・コロナ禍において諸経費の削減や医療資材の調達の見直しなど、様々な経営改善策を行っている中、オンライン診療といった新たな取組に着手する医療機関が増えている。

<表 8: 経営状況が悪化している医療機関の経営改善策> n=318(病院 n:111, 診療所 n:207)

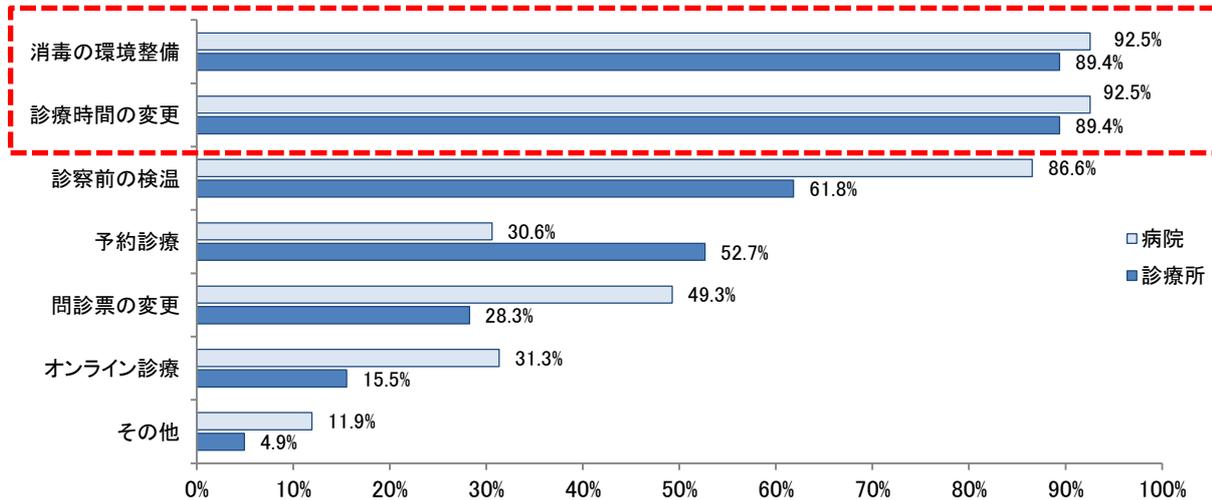


(8) 感染防止対策

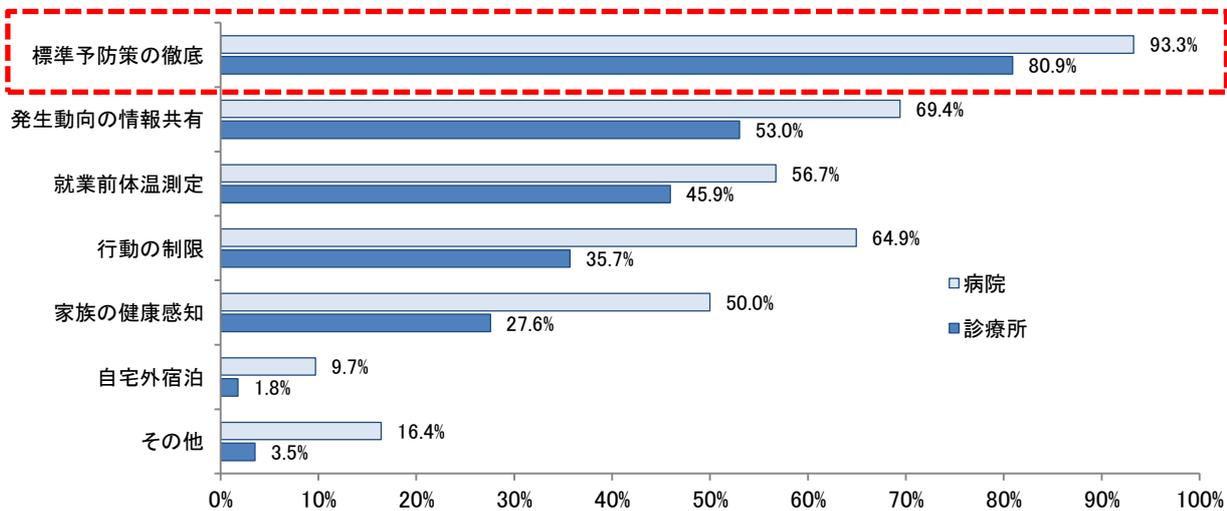
・病院，診療所の9割が「消毒の環境整備」「診察時間の変更」などの対策を実施している。また，診察前の検温を病院では約9割，診療所では6割強実施し，診療所では予約診療を5割強行うなど各医療機関で感染防止策を強化している。

・職員に対しては，病院，診療所ともに9割が「標準予防策の徹底」をしている。病院では7割近くで，発生動向の情報共有を行い，行動の制限などを実施している。

<表 9-1: 感染防止対策(对患者)> n=417(病院 n:134, 診療所 n:283)



<表 9-2: 感染防止対策(対職員)> n=417(病院 n:134, 診療所 n:283)



4 今後の対応

(1) 減収に対する対応

・医療機関における感染対策や病床確保に対する補助制度の積極的な活用と，早期の給付に努める。また，本調査結果を基に，様々な機会を捉えて，国に対して財政支援を強く働き掛けていく。

(2) 受診控えに対する対応

・医療機関の感染防止対策及び適切な受診について，医師会等と連携して県民への周知を図る。
 ・オンライン診療の実用性と実効性，医療安全等の観点からの国の検証結果を踏まえ，オンライン診療の普及促進を図る。

新型コロナウイルス感染症の影響による医療機関の
経営状況等に関する調査結果報告書

令和2年10月

広島県健康福祉局医務課

▶調査の目的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、患者の受診控え等により、多くの医療機関において経営状況の悪化が懸念されている。現在、医療機関が直面している状況や運営・経営上の課題を把握するため、次のとおりアンケート調査を行った。

▶調査概要

1 調査期間

令和2年8月21日～9月4日（調査時点：令和2年8月）

2 調査対象

県内の医療機関 1,037 施設

・病院：237 施設（全施設）

・診療所：800 施設（無作為抽出：医科 500，歯科 300 施設）

3 調査項目

・経営状況、経営改善策等

・通信機器（電話等）による診療

・感染防止対策 等

4 回答率

40.2%

5 追加調査

・調査期間：令和2年10月5日～10月9日

・調査対象：上記調査で「経営状況が悪化」かつ「採算割れしている」と回答した県内医療機関 90 施設（病院 43 施設，診療所 47 施設（医科 33 施設，歯科 14 施設）

・調査項目：医業収益，医業費用（今年と前年の4月～8月）

・回答率：病院 76.7%，診療所 48.9%

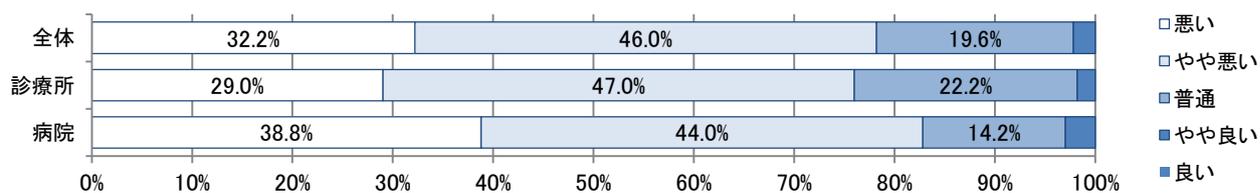
目次

1	平常時と比較した最近の経営状況	2
2	収益状況	3
	（1）採算割れの状況	
	（2）医業収益の状況（対前年度比較）	4
	（3）医業収益の推移	5
	（4）医業収益の推移（追加調査）	7
3	収益悪化	8
	（1）収益悪化の理由	
	（2）患者数の減少の理由	9
	（3）外来患者の減少	10
	① 外来患者数の減少率	
	② 外来患者数の減少による収入減	11
	（4）費用の増加	12
	（5）昨年度の財務状況	14
	（6）新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ	
4	経営改善策	15
5	オンライン診療	16
	（1）オンライン診療の実施の有無	
	（2）オンライン診療を実施しない理由	17
6	感染防止対策	18
	（1）感染防止対策（体制確保，对患者，対職員）	
	（2）外来のゾーニング	19
7	運営上の課題（自由意見）	20
8	感染防止対策（自由意見）	21

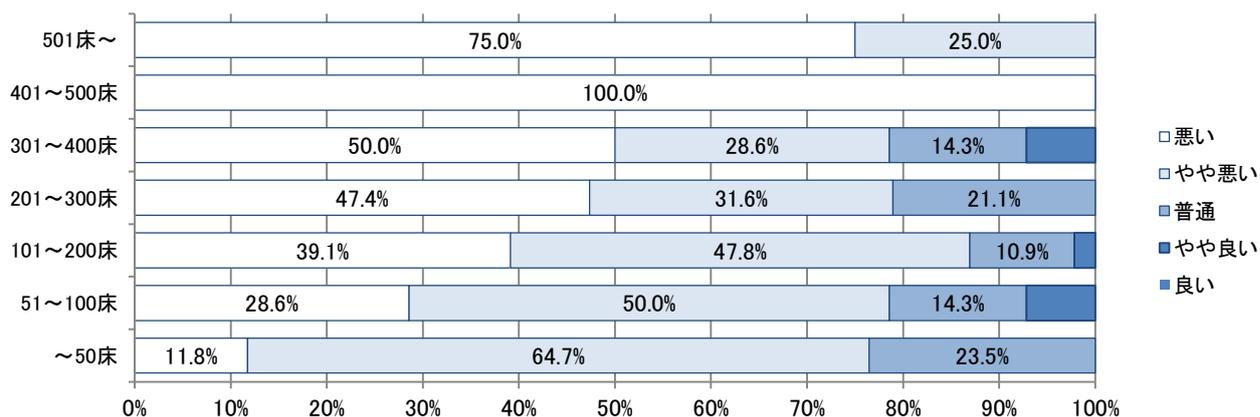
1 平常時と比較した最近の経営状況

- ・ 約8割の医療機関が平常時と比べて最近の経営状況は「悪い」または「やや悪い」と感じている。なお、若干、病院の方が経営状況を悪く感じており、病院、診療所とも「良い」と感じている医療機関はない。
- ・ 病院の最近の経営状況をみると、規模が大きい病院の方が経営状況を悪いと感じている。
- ・ 診療所の診療科別に最近の経営状況をみると、耳鼻咽喉科、小児科、外科の順で経営状況を悪いと感じており、一方で産婦人科は他の診療科に比べて最近の経営状況を悪く感じていない。

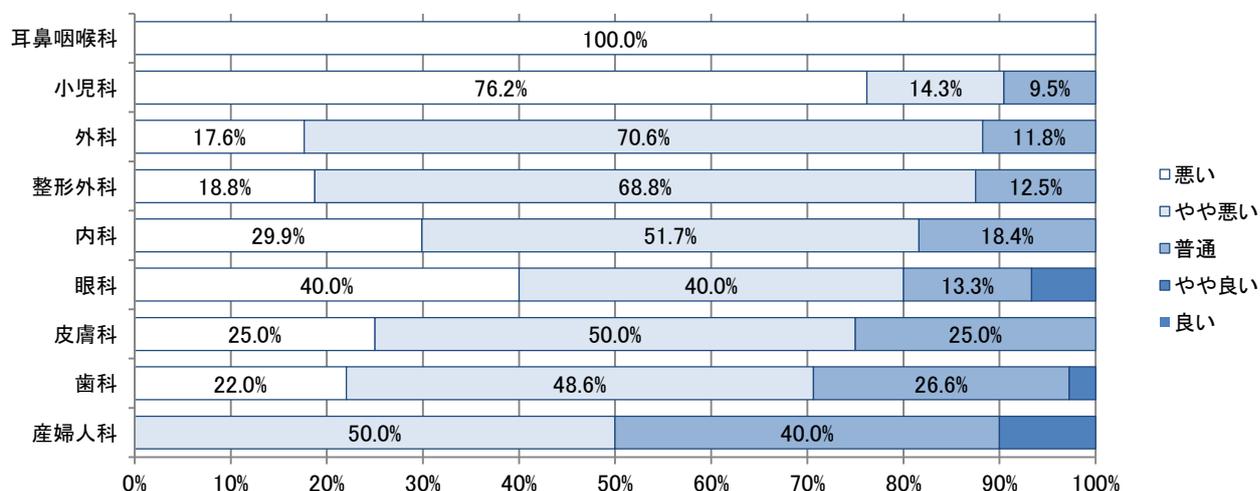
<表1:病院及び診療所の平常時と比較した経営状況> n=413 (病院 n:134, 診療所 n:279)



<表1-1:病院の規模別の平常時と比較した経営状況> n=134



<表1-2:診療所の診療科別の平常時と比較した経営状況> n=279

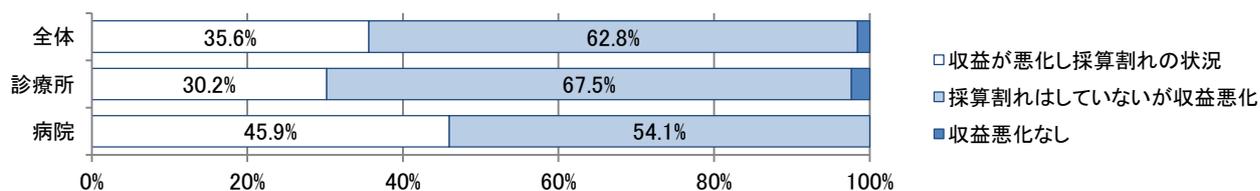


2 収益状況

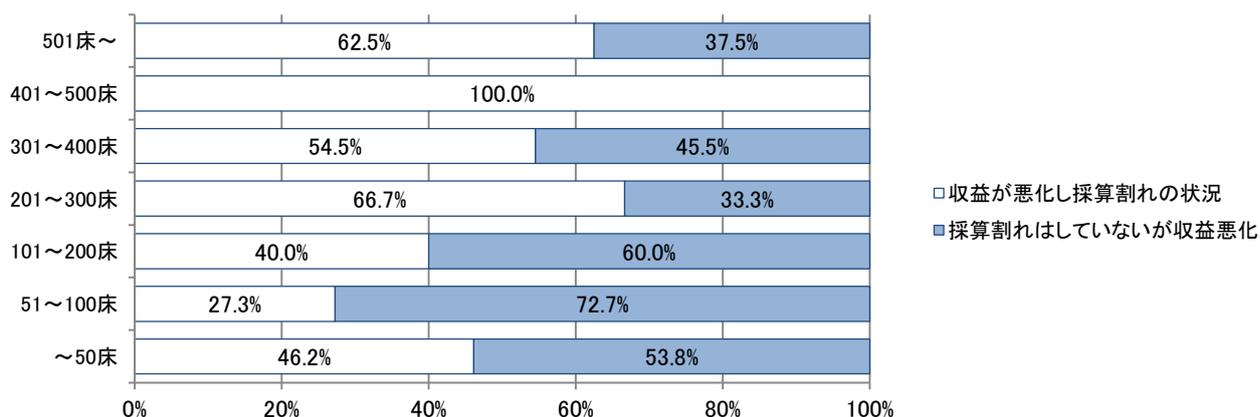
(1) 採算割れの状況

- ・ 経営状況が「悪い」または「やや悪い」と感じている医療機関のうち、約4割は収益が悪化し、採算割れの状況にある。その傾向は病院の方が強く出ている。
- ・ 病院の収益状況をみると、規模が大きい病院の方が収益状況は悪くなっている。
- ・ 診療所の診療科別に収益状況をみると、耳鼻咽喉科の8割強、小児科の6割強において収益が悪化し、採算割れの状況となっている。産婦人科については、採算割れの収益状況はみられない。

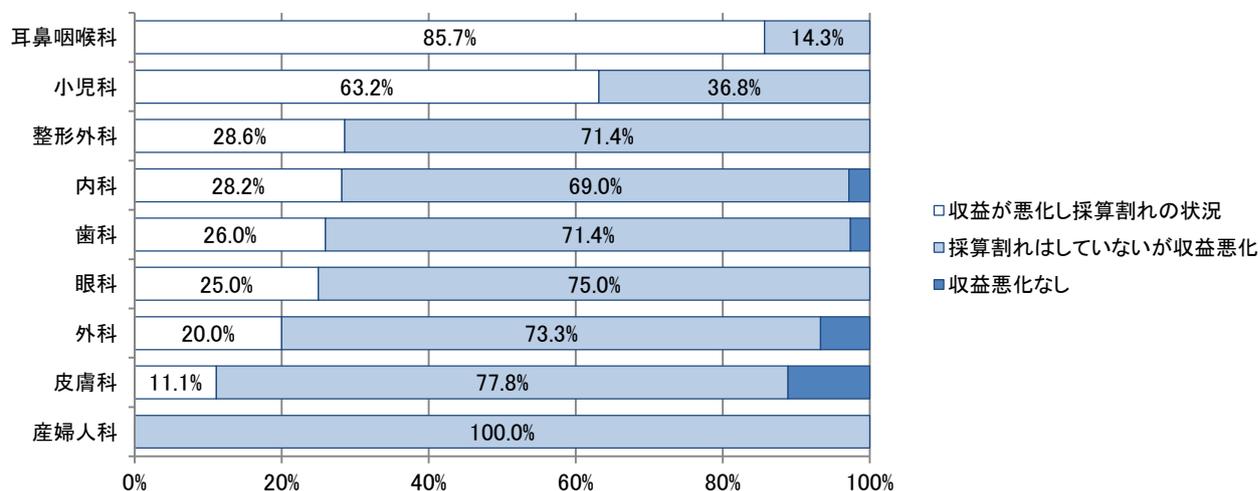
<表2-1:経営状況が悪化している病院及び診療所の収益状況> n=323(病院 n:111, 診療所 n:212)



<表2-1-1:経営状況が悪化している病院の規模別の収益状況> n:111



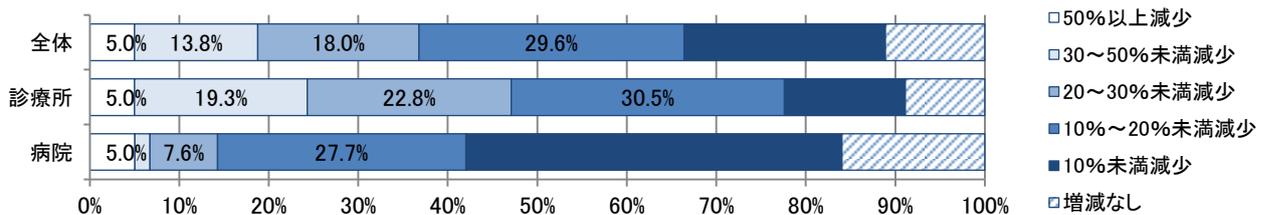
<表2-1-2:経営状況が悪化している診療所の診療科別の収益状況> n:212



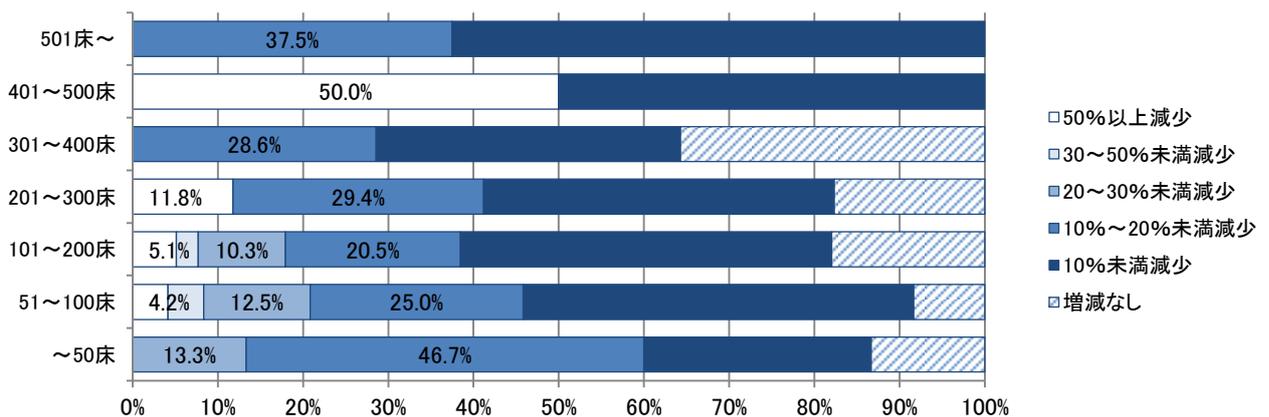
(2) 医業収益の状況（対前年度比較）

- ・ 約4割の医療機関は収益が悪化し、前年度と比較すると20%以上減収となっている。特に診療所は9割が多寡はあるものの、医業収益が減少している。
- ・ 病院の医業収益の状況を見ると、規模が小さい病院に医業収益の状況が悪い病院が多い。
- ・ 診療所の診療科別に医業収益の状況を見ると、回答した全ての耳鼻咽喉科においては20%以上の減少、小児科においては3割が50%以上減少している。一方で、産婦人科と整形外科については、他の診療科と比較して、医業収益の減の幅が比較的小さい状況である。

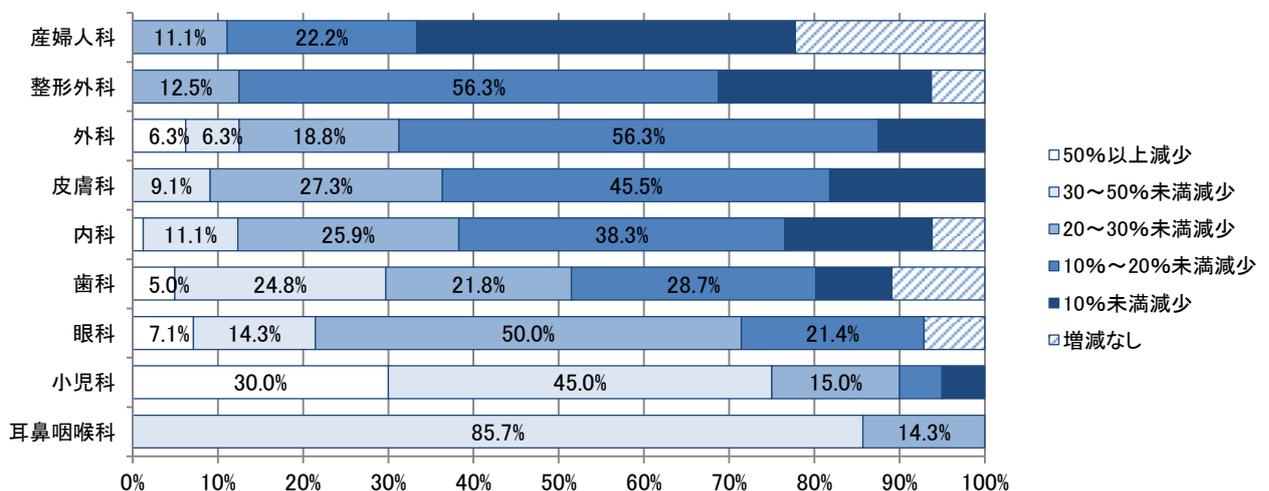
＜表2-2：病院及び診療所の医業収益の状況＞n=378(病院n:119, 診療所 n:259)



＜表2-2-1：病院の規模別の医業収益の状況＞n=119



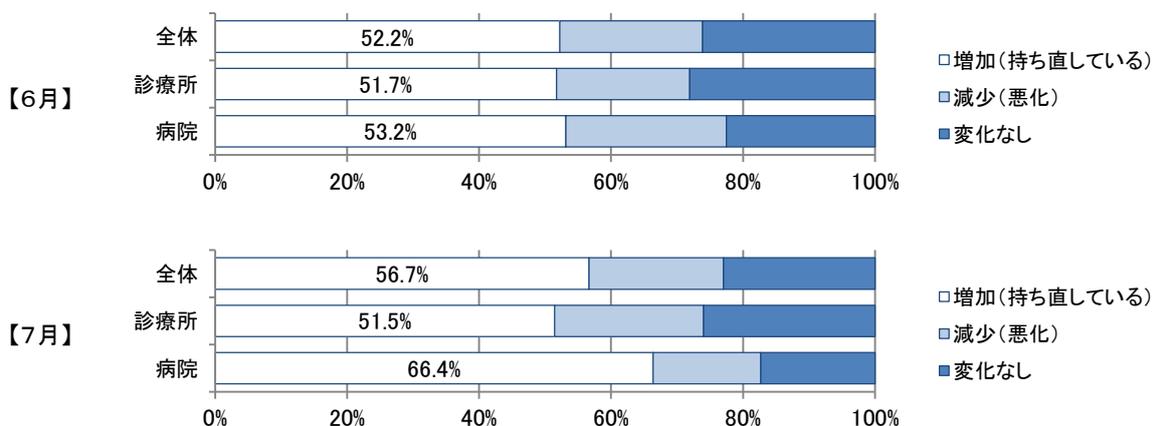
＜表2-2-2：診療所の診療科別の医業収益の状況＞n=275(複数の診療科を標榜している場合、重複あり。)



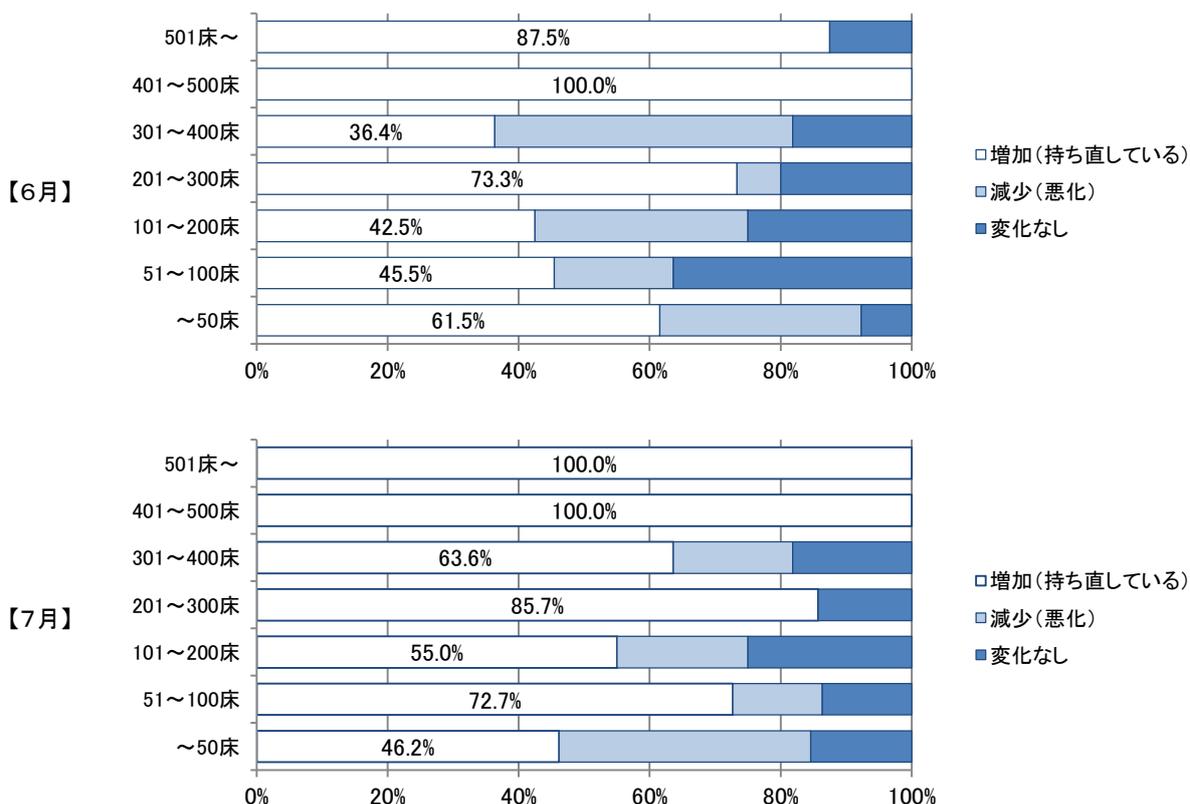
(3) 医業収益の推移

- ・ 経営状況が悪化していた医療機関のうち約5, 6割の医療機関の医業収益が増加し、持ち直してきている。また、時間を経過するにつれて、医業収益が回復しているが、その傾向は病院のみで、診療所について、回復傾向は鈍化している。
- ・ 病院の医業収益の推移をみると、規模の大きい病院の収益は回復している状況であるが、規模の小さい病院の収益の回復は遅い状況である。
- ・ 診療所の診療科別に医業収益の推移をみると、産婦人科など大きく回復している診療科もあるが、全体的には横ばい傾向である。

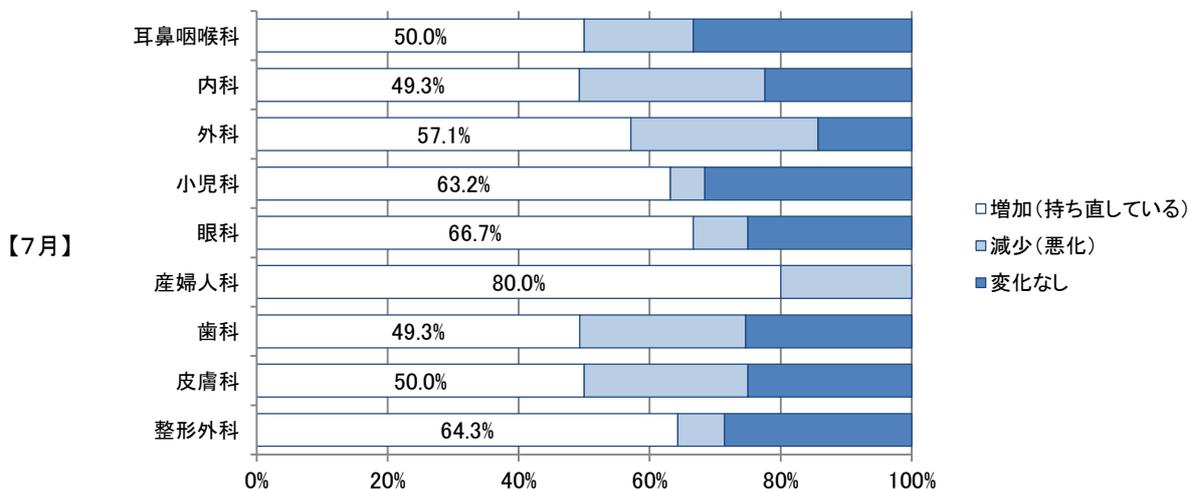
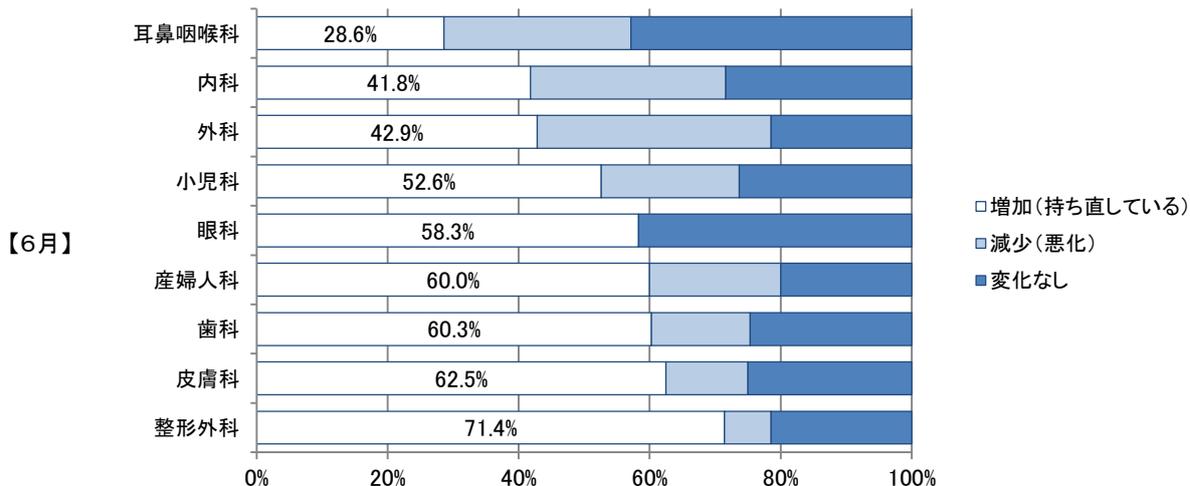
<表2-3:経営状況が悪化している病院及び診療所の医業収益の状況(4月との比較)> n=318(病院: n:111 診療所n:207)



<表2-3-1:経営が悪化している病院の規模別の医業収益の状況(4月との比較)> n=111



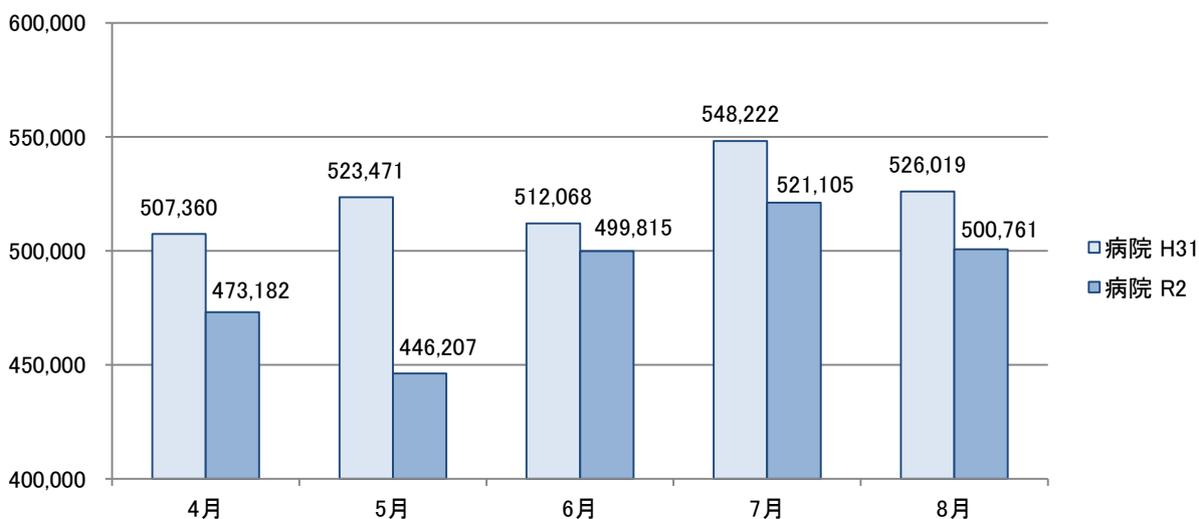
<表2-3-2:経営が悪化している診療所の診療科別の医業収益の状況(4月との比較)> n=207



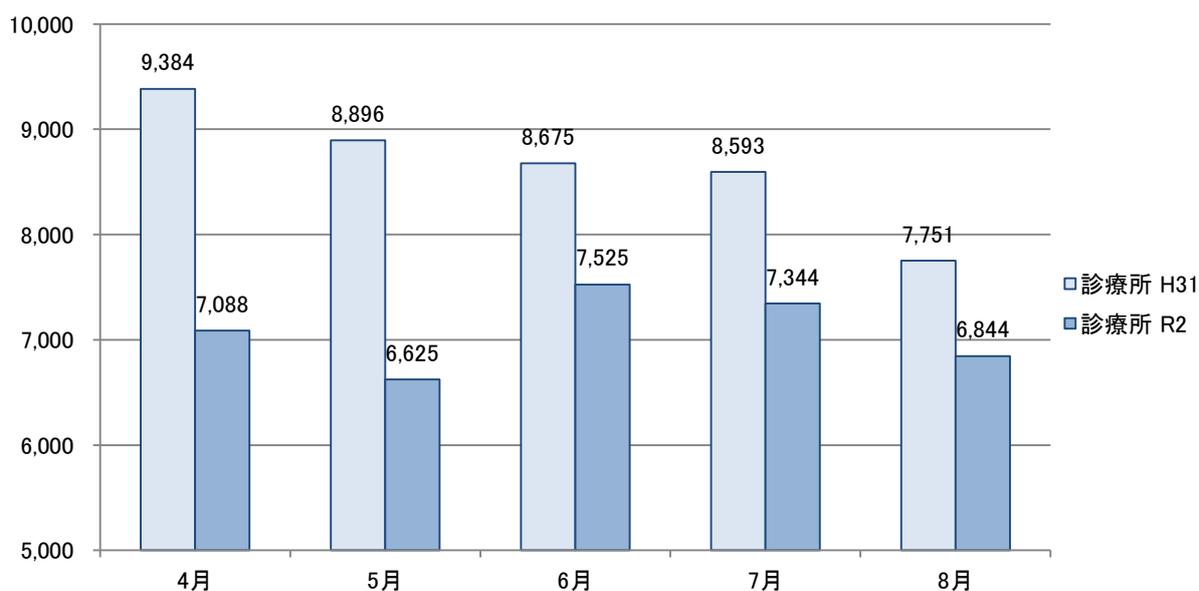
(4) 医業収益の推移 (追加調査)

- ・ 最近の経営状況 (平常時比較) で「5 悪い」と回答し、かつ「採算割れである」と回答した病院、診療所 (90) に追加調査を行った。病院、診療所ともに医業収益は4、5月の減少幅が大きい。
- ・ 病院・診療所ともに昨年度と比較した医業収益の差は、一時期の落ち込みからは回復しているものの、昨年度の医業収益までには回復していない。

<表2-4-1: 経営状況が悪化している病院一施設あたりの医業収益> n=33
(千円)



<表2-4-2: 経営状況が悪化している診療所一施設あたりの医業収益> n=23
(千円)

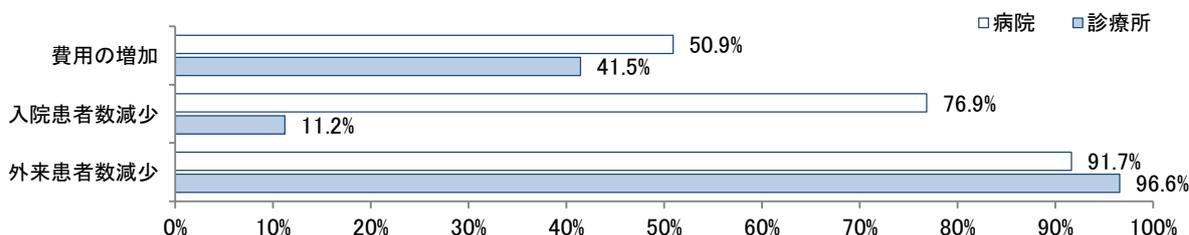
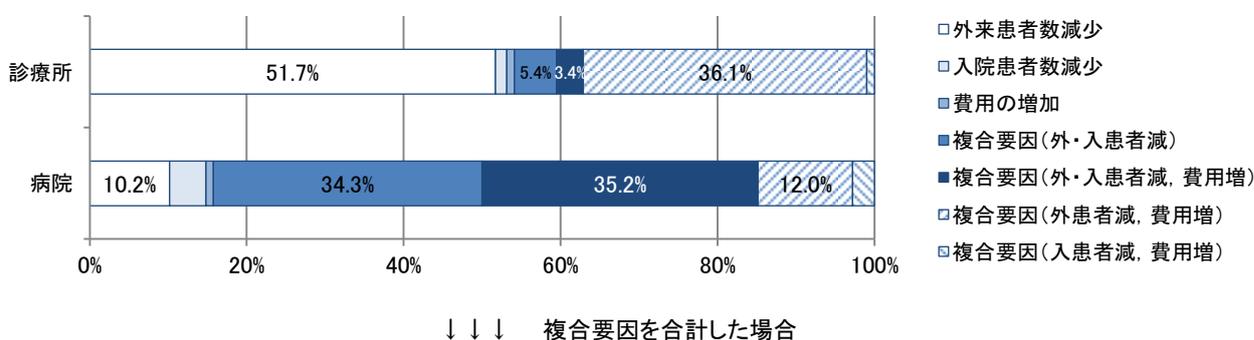


3 収益悪化

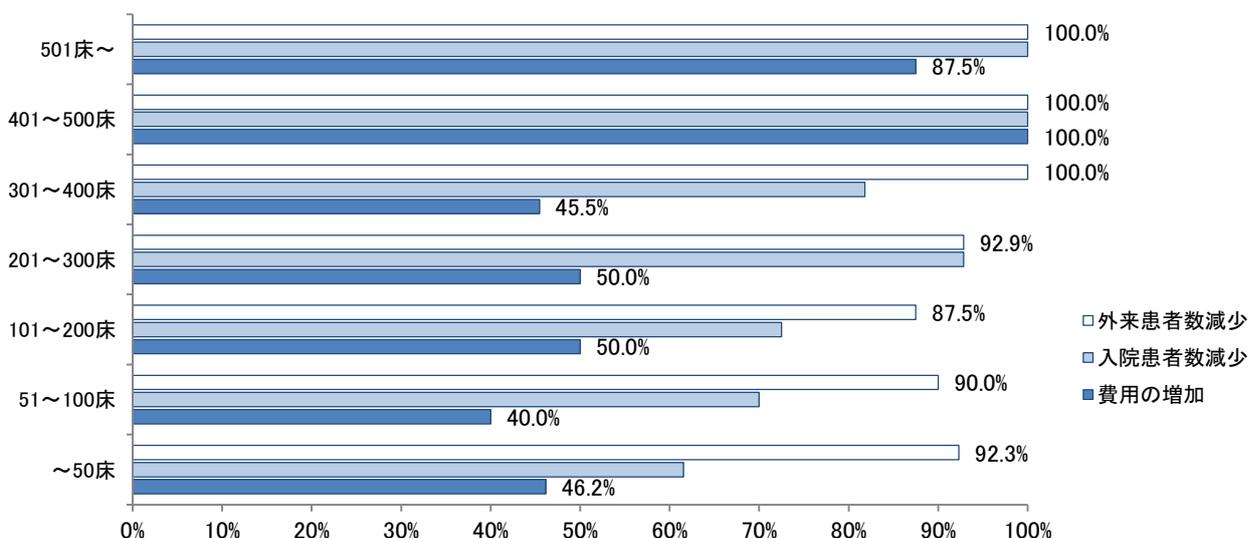
(1) 収益悪化の理由

- ・ 収益悪化の主な要因は外来患者数の減少である。なお、病院については入院患者数の減少も多く、診療所については、費用の増加が大きい。
- ・ 病院の収益悪化の理由をみると、規模の大小を問わず外来患者数の減少が影響している。また、入院患者数の減少については、規模の大きい病院において特に影響している。
- ・ 診療所の診療科別の収益悪化の理由をみると、産婦人科以外は外来患者数の減少が影響している。また、産婦人科、歯科など、費用の増加が影響している診療科もある。

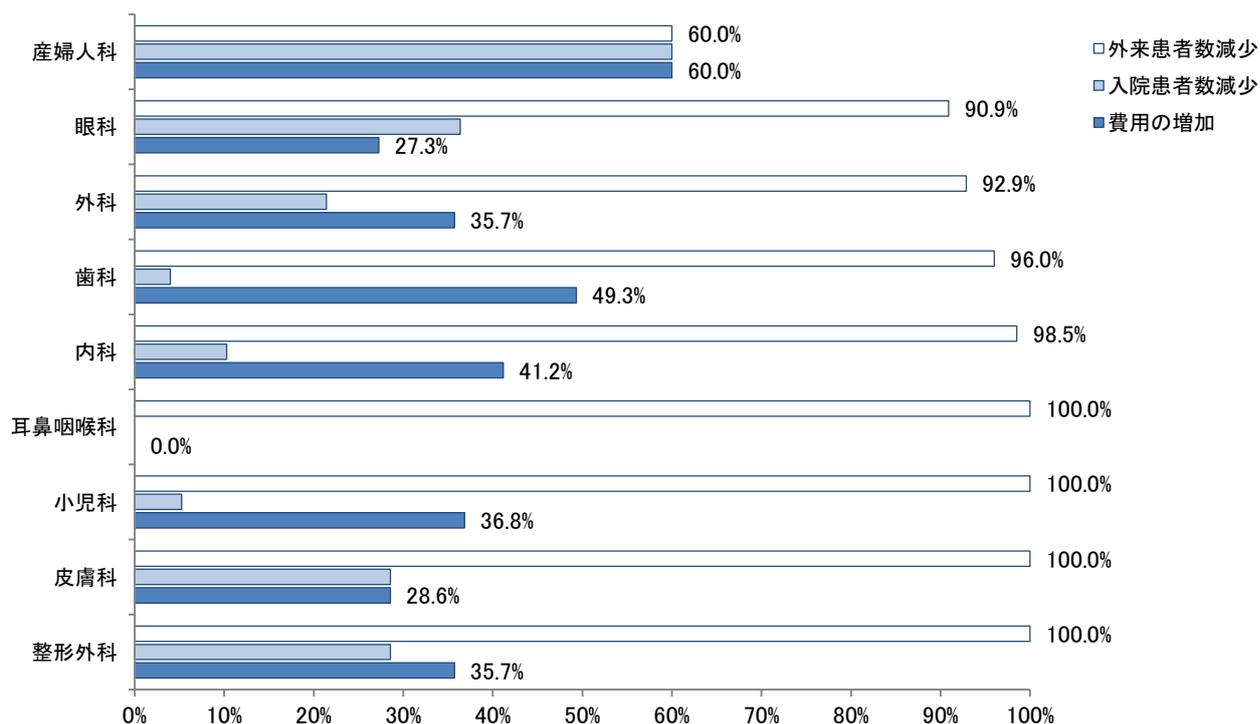
<表3-1: 経営が悪化している病院及び診療所の収益悪化の理由> n=313 (病院 n:108 診療所 n:205)



<表3-1-1: 経営が悪化している病院の規模別の収益悪化の理由> n=108



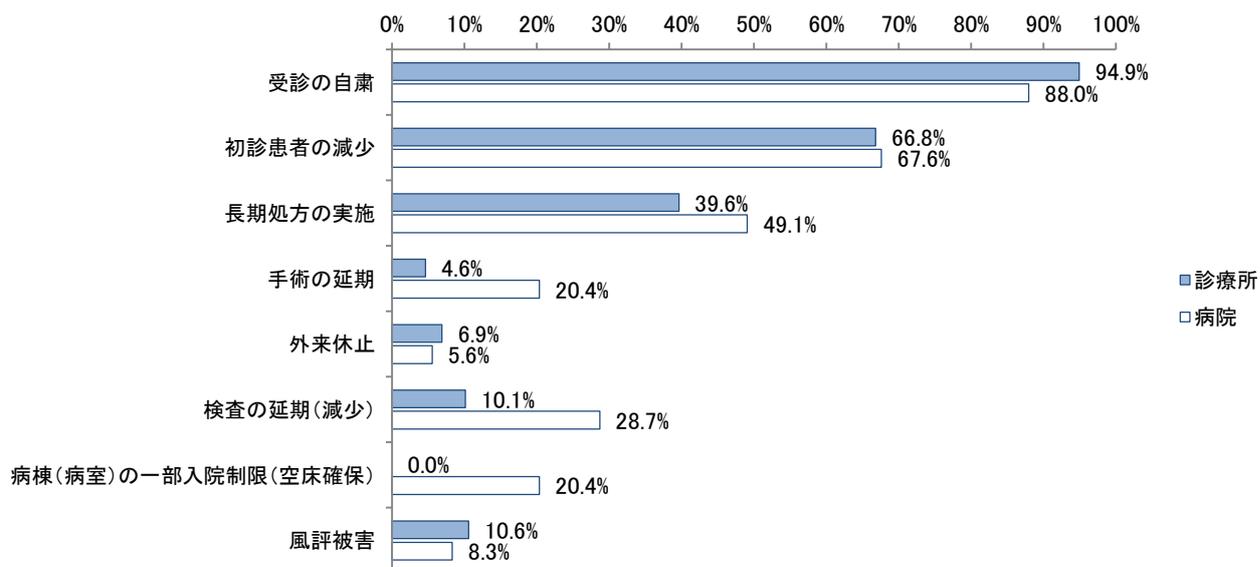
<表3-1-2:経営が悪化している診療所の診療科別の収益悪化の理由> n=220(重複あり)



(2) 患者数の減少の理由

- ・ 経営悪化の主要因である患者数の減少の主な理由は「受診の自粛」であり、続いて「初診患者の減少」であった。病院については、検査や手術の延期、病棟の空床確保などの通常業務を制限する理由もあった。

<表3-2:患者数が減少している病院及び診療所における患者数減少の理由> n=325 (病院 n:108 診療所 n:217)

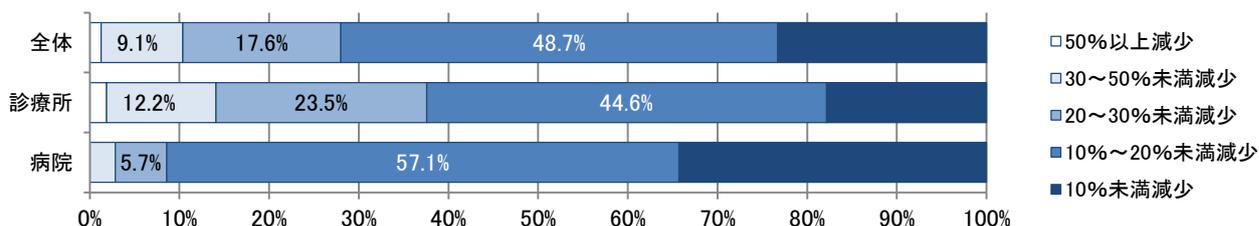


(3) 外来患者の減少

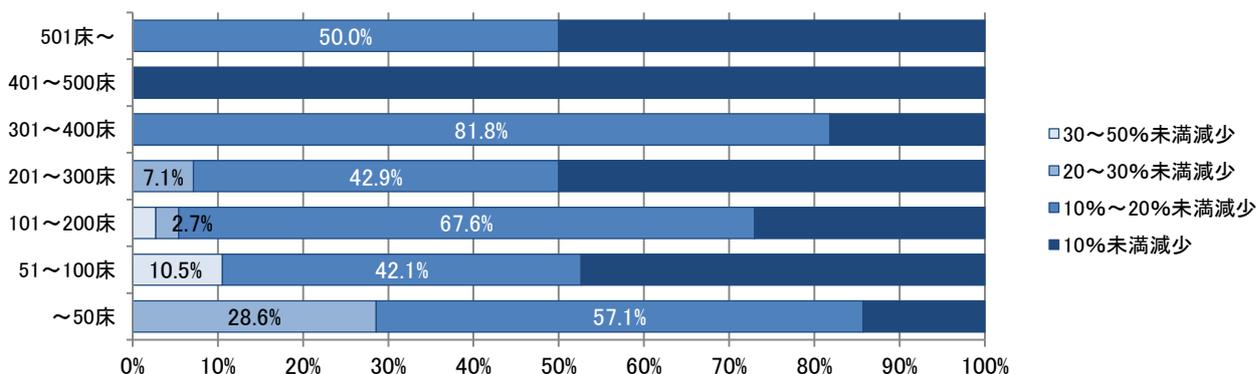
① 外来患者数の減少率

- ・ 外来患者数の減少の割合をみると、病院では全体の約 9 割が 20%未満の減少率で、診療所では全体の約 9 割が 30%未満の減少率であった。
- ・ 病院の外来患者数の減少率をみると、規模が小さい病院の方が外来患者の減少率が大きい状況であった。
- ・ 診療所の外来患者数の減少率をみると、耳鼻咽喉科が最も高く、続いて小児科であった。小児科については、約半数の診療所が 30%以上の減少率であった。

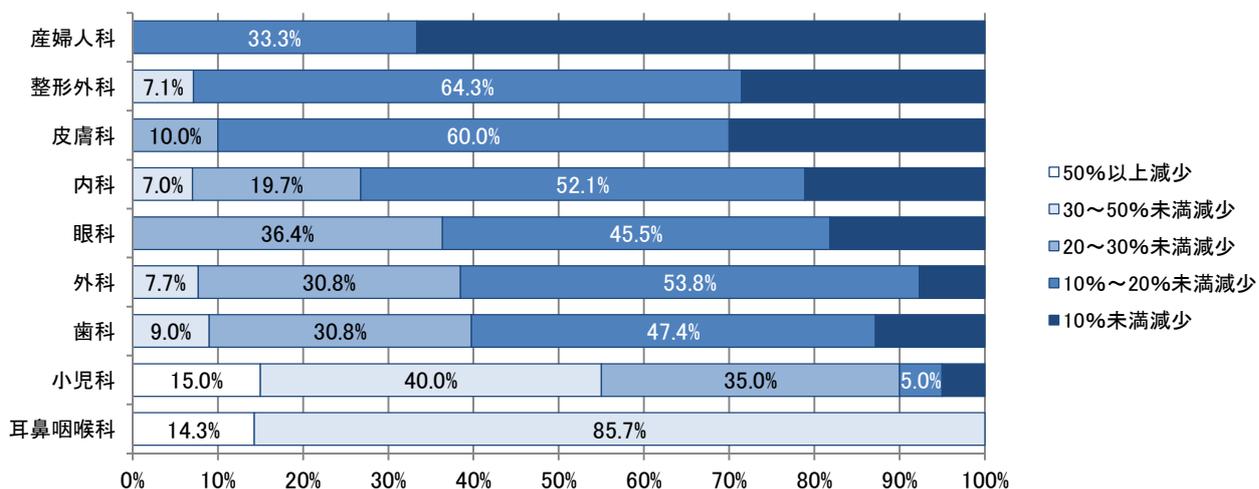
<表3-3-1:病院及び診療所における外来患者の減少率> n=325(病院 n:108 診療所 n:217)



<表3-3-1①:病院の規模別の外来患者数の減少率> n=108



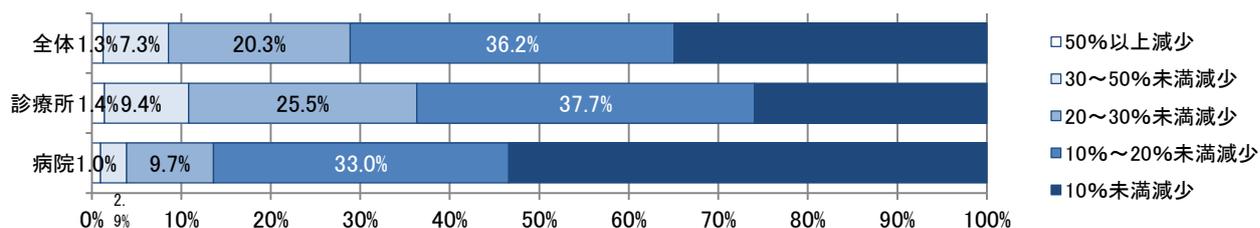
<表3-3-1②:診療所の診療科別の外来患者数の減少率> n=217



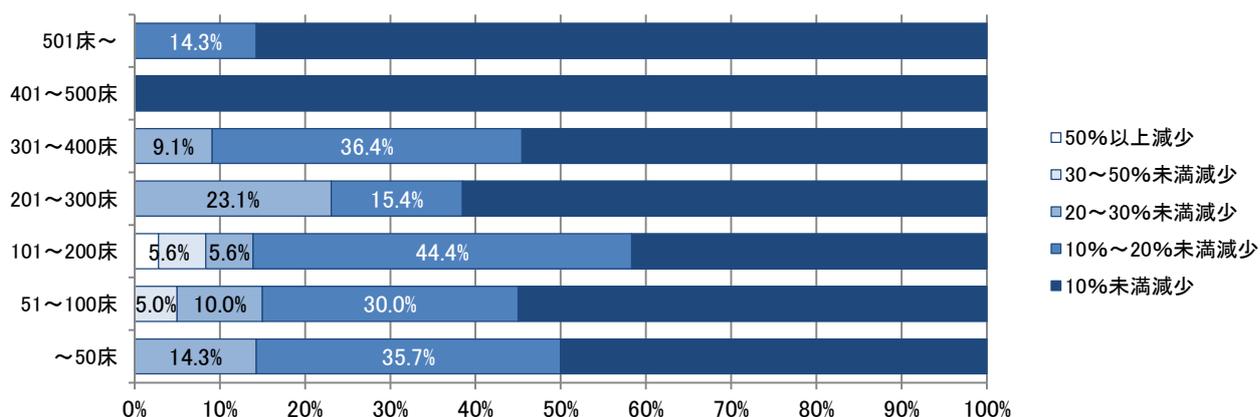
② 外来患者数の減少による収入減

- ・ 外来患者数の減少による外来収入の減少率をみると、病院では全体の約9割が20%未満の減少率で、診療所では全体の約9割が30%未満の減少率であった。
- ・ 病院の外来患者数の減少による外来収入の減少率をみると、規模が小さい病院の方が外来患者の減少による影響が大きい状況であった。
- ・ 診療所の外来患者数の減少による外来収入の減少率をみると、耳鼻咽喉科が最も高く、続いて小児科であった。小児科については、約4割の診療所が30%以上の減少率であった。

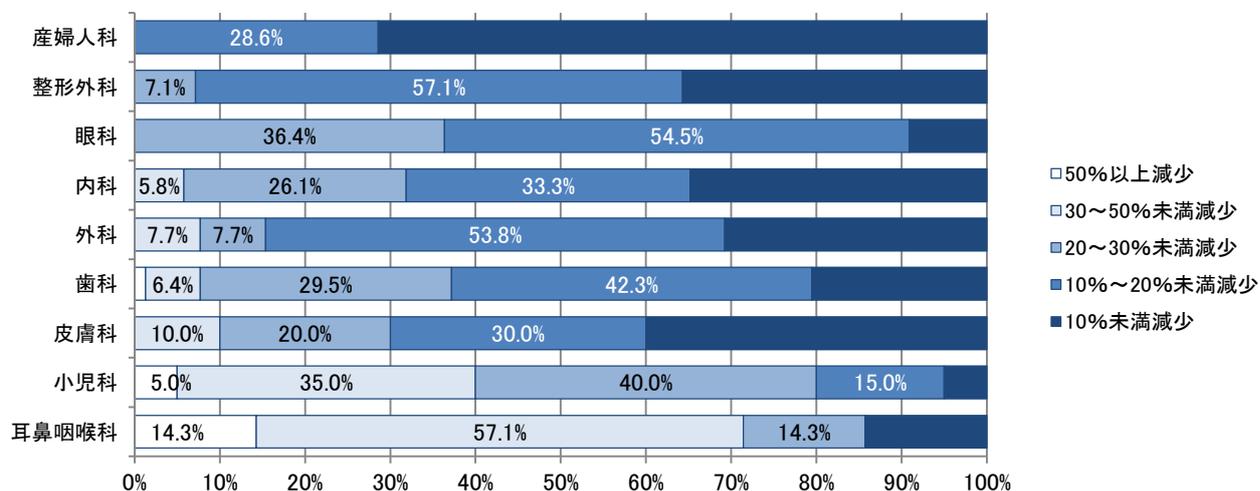
＜表3-3-2: 患者数が減少している病院及び診療所の外来収入減少率＞ n=315 (病院 n:103, 診療所 n:212)



＜表3-3-2①: 患者数が減少している病院の規模別の外来収入減少率＞ n=103



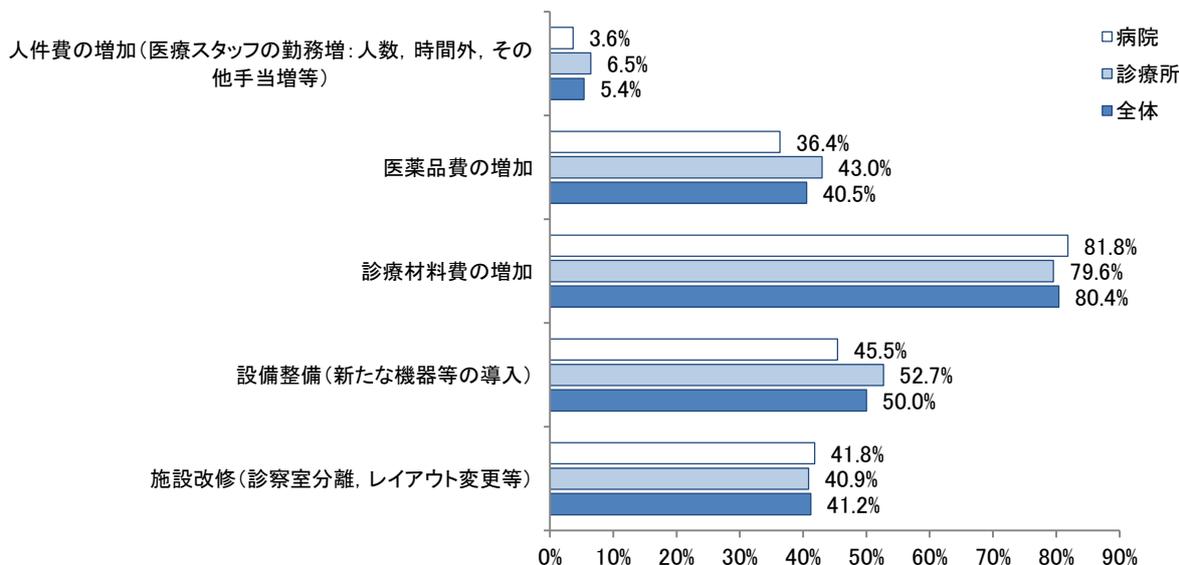
＜表3-3-2②: 患者数が減少している診療所の診療科別の外来収入減少率＞ n=212



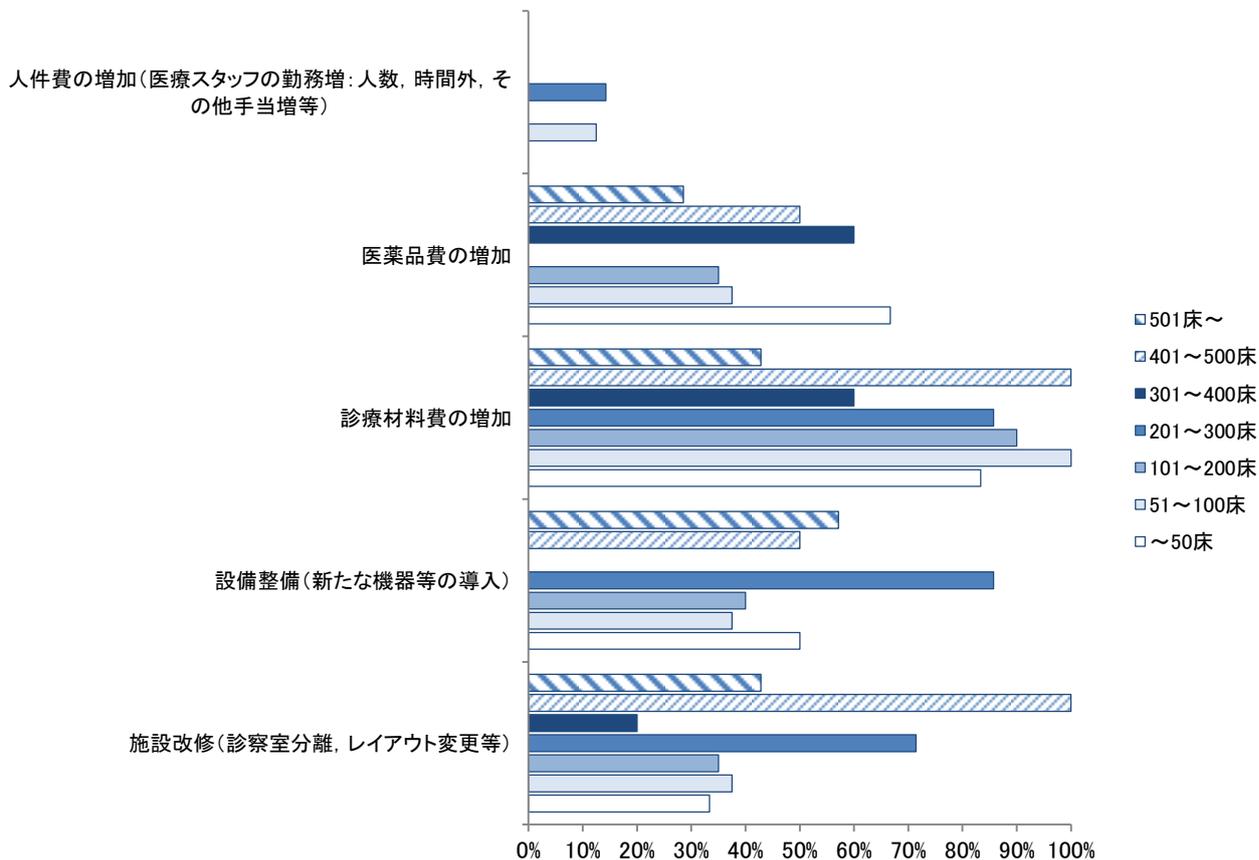
(4) 費用の増加

- ・ 収益悪化の要因の一つである費用の増加については、「診療材料費の増加」が最も多く、続いて「設備整備」であり、「人件費の増加」はほとんどなかった。
- ・ 病院の規模別や診療所の診療科別の費用増加の項目については、401床～500床の病院、外科では、施設改修が10割となっている。

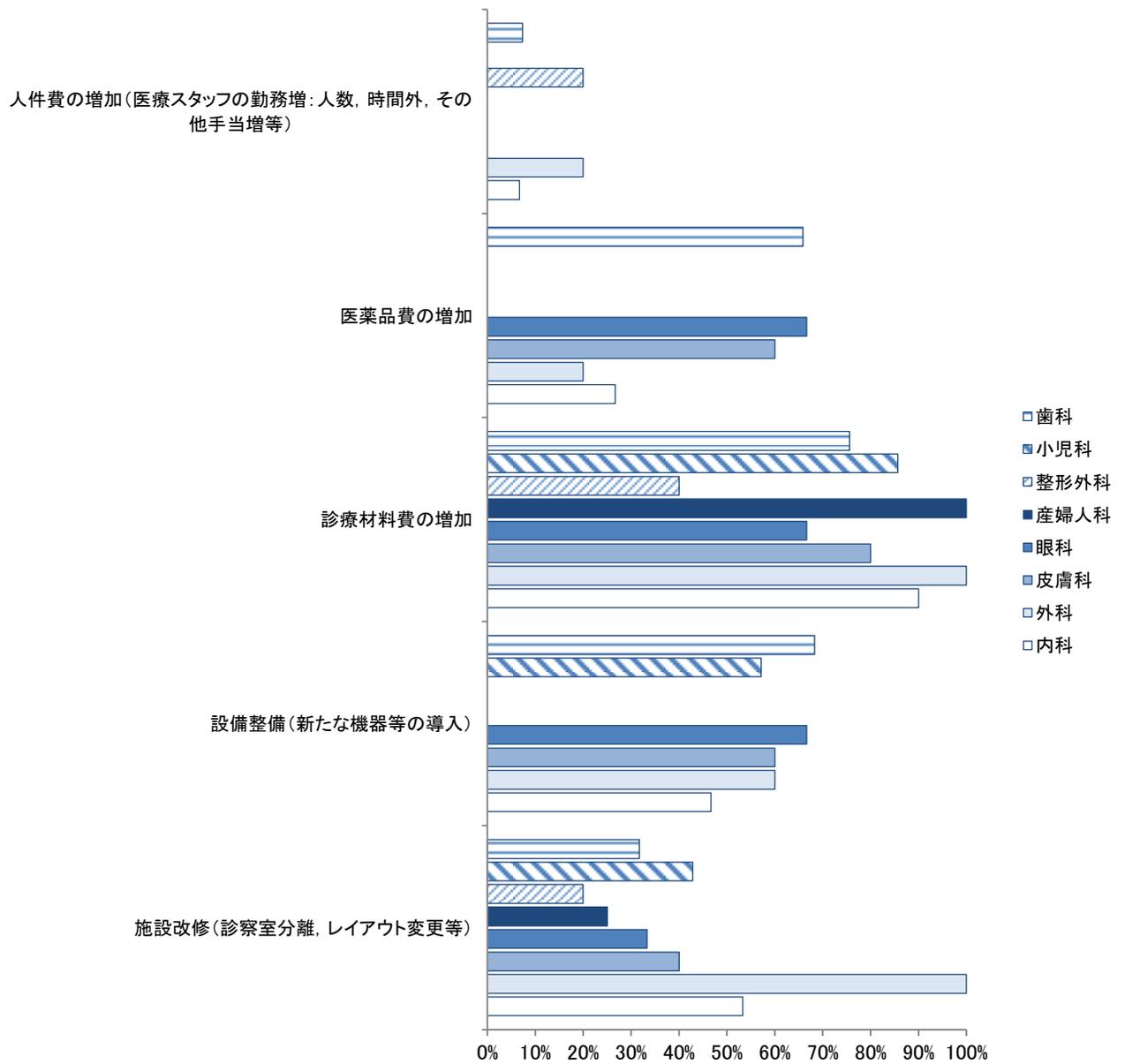
＜表3-4：収益悪化の理由として費用の増加としている病院及び診療所の費用増加の内訳＞ n=148(病院 n:55 診療所 n:93)



＜表3-4-1：収益悪化の理由として費用の増加としている病院の規模別の費用増加の内訳＞ n=55



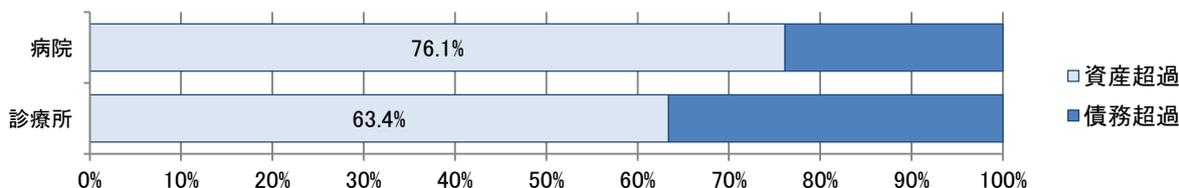
<表3-4-2: 収益悪化の理由として費用の増加としている病院の規模別の費用増加の内訳> n=55



(5) 昨年度の財務状況

- 「経営状況が悪い」かつ「採算割れしている」と回答した医療機関の昨年度の財務状況は、病院では「資産超過」が約8割、診療所では約6割と半分以上が良好な財務状況であり、すぐに経営破綻する状況だと見込めないものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける今年度の財務状況を注視していく必要がある。

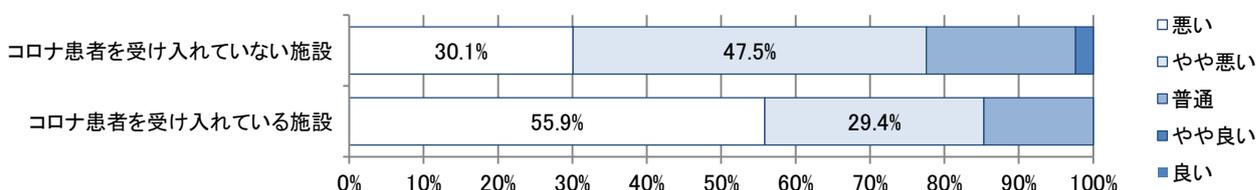
<表3-5:「経営状況が悪い」かつ「採算割れしている」と回答した医療機関の昨年度の財務状況> n=87(病院n:41 診療所 n:46)



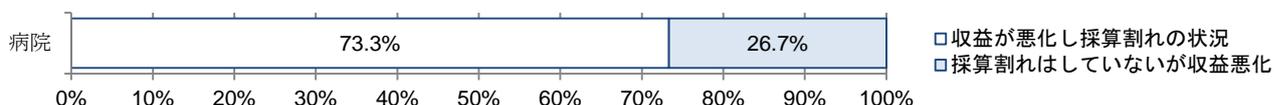
(6) 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ

- 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っている医療機関の約9割は経営状況が悪化している。また、経営状況が「悪い」と回答した割合は約6割であり、これは受け入れていない医療機関と比べると約2倍の状況である。
- 病院は全てが収益悪化または採算割れの状況にあり、そのうち採算割れしている病院は約7割である。

<表3-6:新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っている医療機関の経営状況>



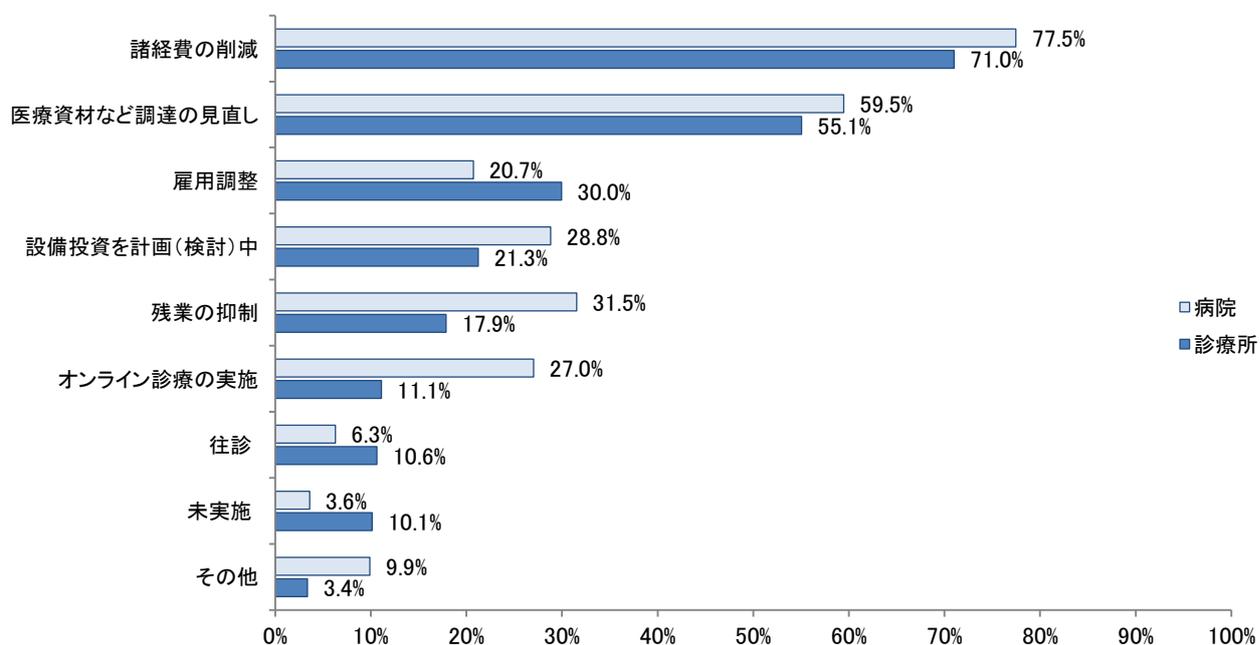
<表3-6-1:新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っている医療機関の収益状況>



4 経営改善策

- ・ 経営状況が悪化している病院，診療所ともに，5割以上が「医療資材の見直し」を行っている。「諸経費の削減」は，病院では8割近く，診療所では7割が「諸経費の削減」を実施している。
- ・ また，2割～3割程度の医療機関が，残業の抑制，雇用調整，設備投資などの経営改善を行っている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症で初診から時限的に認められているオンライン診療（電話診療含む）についても，病院で約3割，診療所で約1割が取組みを行っている。
- ・ その他の意見では，ベットコントロールによる病床利用率の維持，外部コンサルタントの導入，補助金の利用，自由診療の拡充，予防接種の接種勧奨，風評被害の払拭，休暇の取得勧奨などが挙げられた。

＜表4：経営状況が悪化している医療機関の経営改善策 n=318（病院:n:111，診療所 n:207）

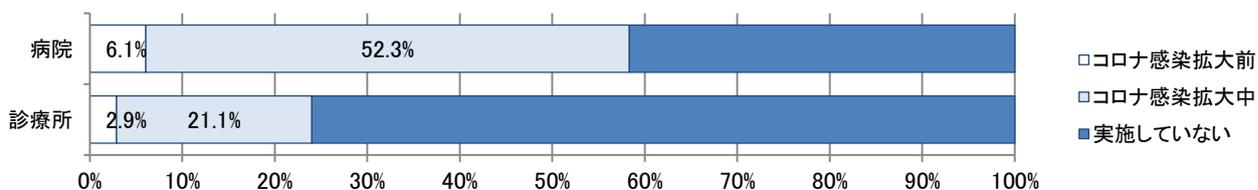


5 オンライン診療

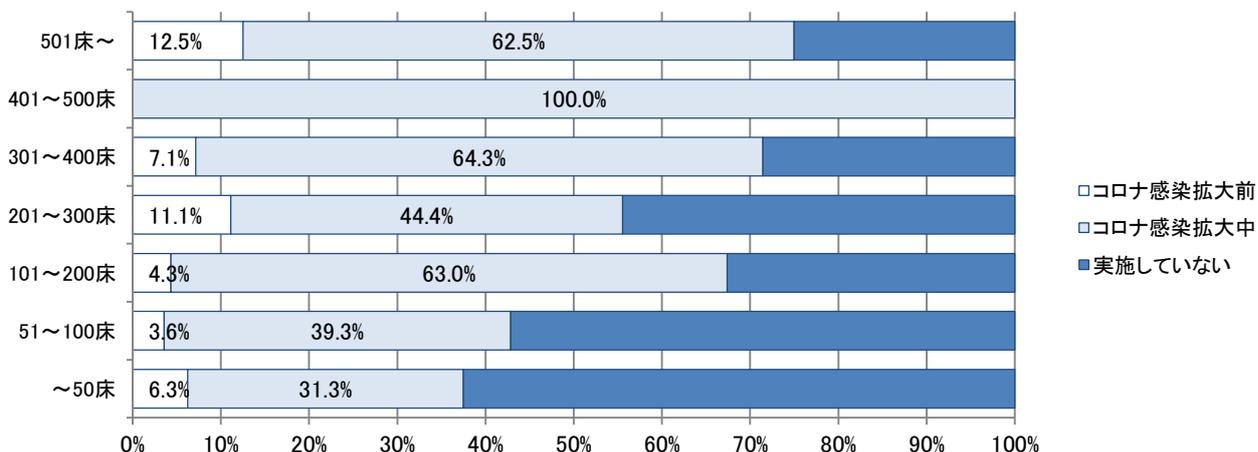
(1) オンライン診療の実施の有無

- ・ オンライン診療を実施しているのは、病院では6割強、診療所では2割強である。
- ・ 実施時期はコロナウイルス感染症が拡大するにつれ、オンライン診療を行う病院、診療所が増加しており、病院は5割強、診療所は2割強である。
- ・ 診療科別では、外科が5割強、内科と小児科が約4割、皮膚科が3割強と高い数値を示している。

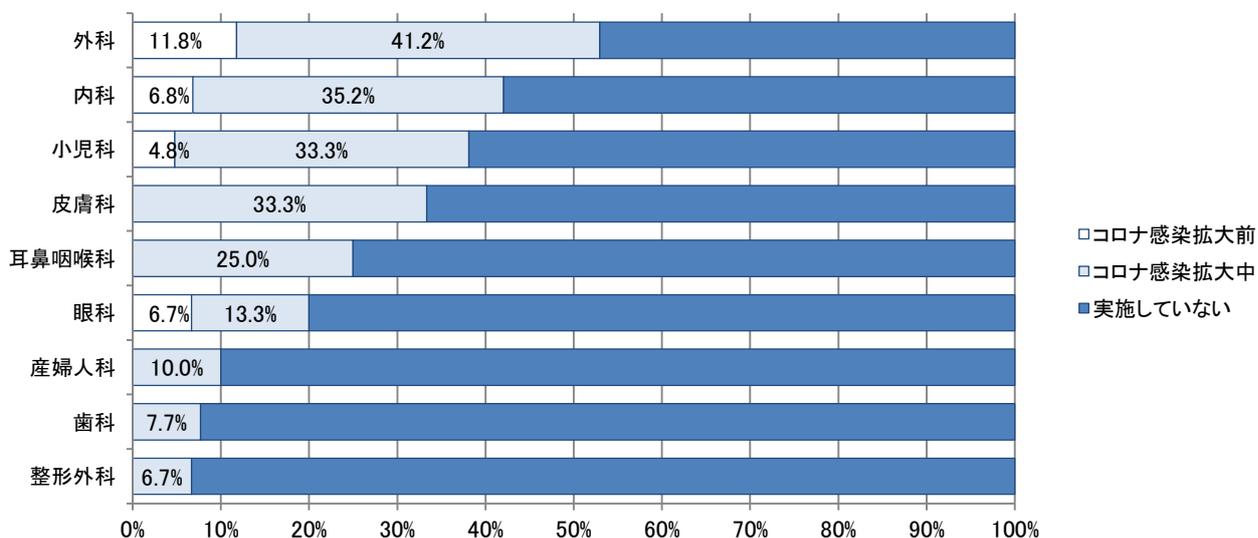
＜表5-1:オンライン診療の実施の有無と実施時期＞ n=407 (病院 n:132 診療所 n:275)



＜表5-1-1:病院の規模別のオンライン診療の実施の有無と実施時期＞ n=407 (病院 n:132 診療所 n:275)



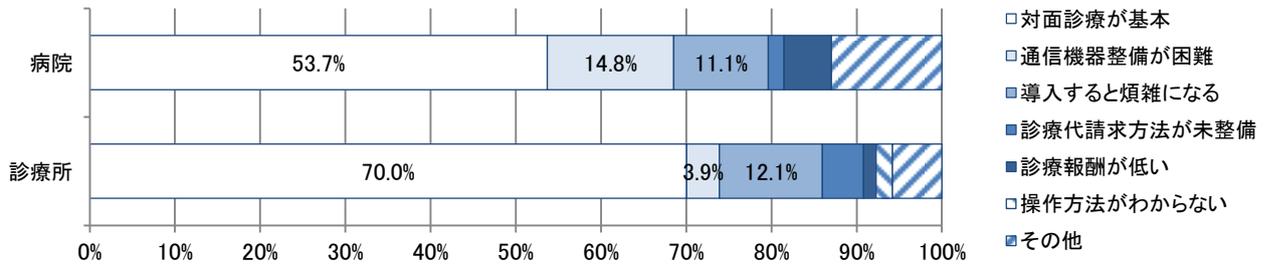
＜表5-1-2:診療所の診療科別のオンライン診療の実施の有無と実施時期＞ n=407 (病院 n:132 診療所 n:275)



(2) オンライン診療を実施しない理由

- ・ オンライン診療を実施しない主な理由は病院、診療所とも「対面診療が基本」であった。
- ・ 病院では「通信機器整備が困難」という理由が続き、診療所では「導入すると煩雑になる」であった。

<表5-2: 診療所の診療科別のオンライン診療の実施の有無と実施時期> n=407 (病院 n:132 診療所 n:275)

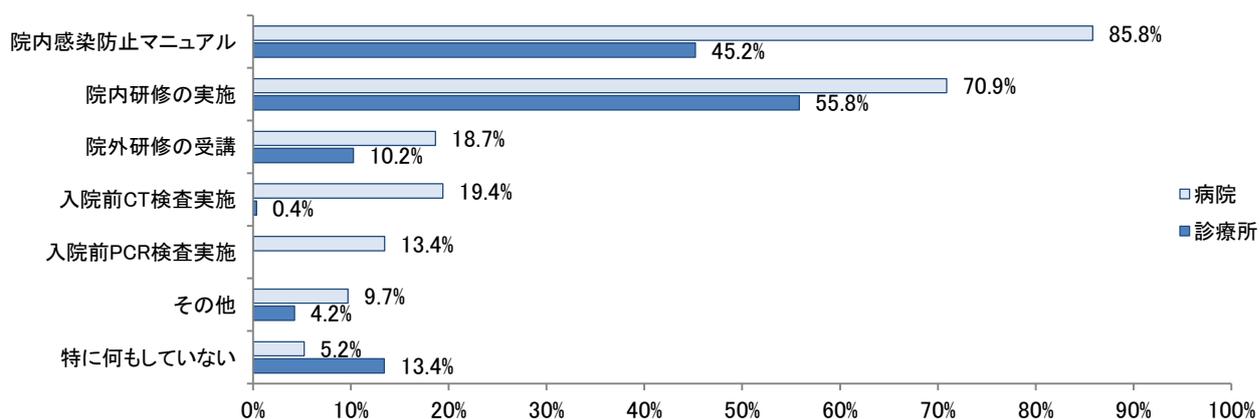


6 感染防止対策

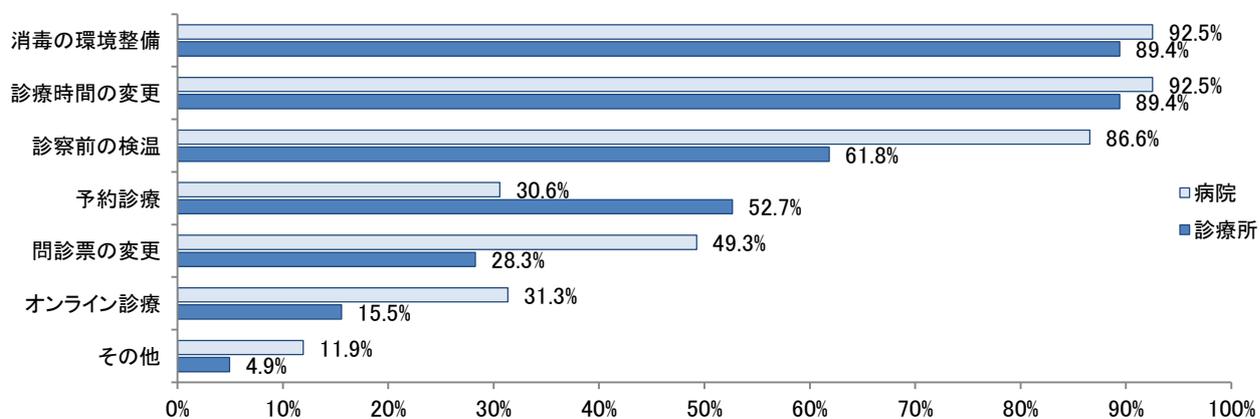
(1) 感染防止対策（体制確保, 对患者, 对職員）

- ・ 病院では約9割, 診療所では約5割が院内感染防止マニュアルを徹底し, 病院では7割, 診療所では約6割が院内研修を実施している。
- ・ 病院, 診療所ともに約9割が消毒環境の整備, 診療時間の変更を実施し, 病院では約9割, 診療所では約6割強が診察前の検温を実施している。また, 診療所では予約診療を5割強行っている。
- ・ 職員に対しては, 病院, 診療所ともに「標準予防策」を徹底している。

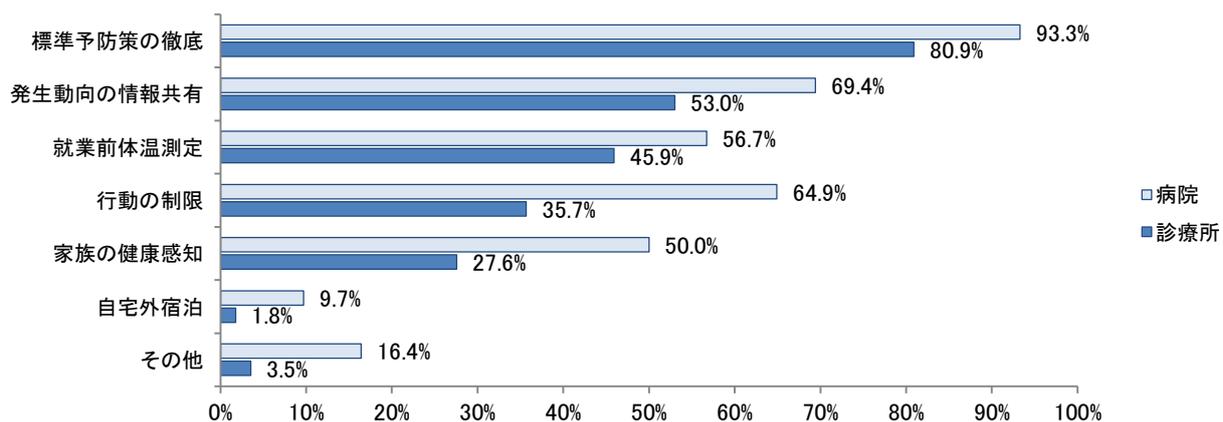
<表 6-1-1: 感染防止対策(体制確保)> n=417(病院 n:134 診療所 n:283)



<表 6-1-2: 感染防止対策(对患者)> n=417(病院 n:134 診療所 n:283)



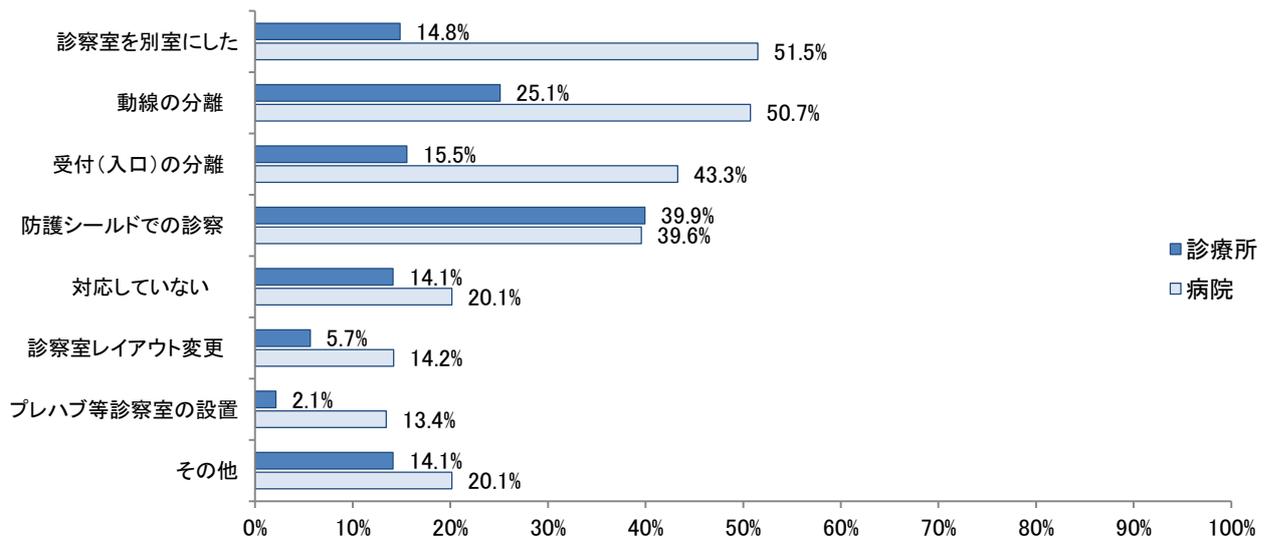
<表 6-1-3: 感染防止対策(对職員)> n=417(病院 n:134 診療所 n:283)



(2) 外来のゾーニング

- ・ 外来のゾーニングについては、診療所は、受付（入口）の分離、診察室の分離を行ったところが、4割～5割であるものの、病院では1割台であった。動線の分離でも診療所が5割を超えているのに対し、病院では2割を超えるに留まった。
- ・ 防護シールドでの診察は病院、診療所ともに4割近く取り組んでいる。
- ・ その他の取組としては、ドライブスルー方式、時間的ゾーニング、待合室の椅子を間引く、受付に飛沫シールドを取り付けるなどがあった。

<表6-2:外来のゾーニング> n=417(病院 n:134 診療所 n:283)



7 運営上の課題（自由意見）

- ・ 収入面では外来・入院患者数の受診控えによる収入減，費用面では医療資材の価格高騰のための費用増，また入手困難で手に入らないという課題がある。
- ・ 人員体制では，職員に陽性者が発生した場合の勤務体制，インフルエンザが同時流行した場合の病棟運営・診療体制の確保が課題として挙げられている。
- ・ 受診自粛に対しては，安全・安心な病院であることを周知するため，感染防止対策を明示するなどの工夫をしている。

<表 7:運営上の課題(自由意見)>

収入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来，入院，救急患者数の減少による収入減 ・ 風評被害等による受診自粛，受診控え ・ 非効率な病棟，外来運営を強いられる。 ・ 新型コロナウイルス感染症が増加の場合の患者の受入れ，収入確保
費用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療資材の価格高騰 ・ 収入の減少による医療資材の調達が困難。
医療資材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療資材の調達が困難（入手困難） ※N95 マスク，ガウン，アルコール手指消毒，手袋，個人防護具 PPE 等
人員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員に陽性者が発生した場合，勤務体制の確保が出来ない。
検査体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ PCR 検査が速やかに出来ない。
風評被害に対する 対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風評被害による受診自粛の方々に安全・安心な病院である事を理解して頂けるよう，感染防止対策を明示している。
インフルエンザ との同時流行	<ul style="list-style-type: none"> ・ インフルエンザ患者とコロナ患者の判別診断 ・ インフルエンザと新型コロナウイルスが同時流行した場合の病棟運営，診療体制の確保

8 感染防止対策（自由意見）

- ・ 施設整備で既存の設備では対応できないが、改修に費用がかかる、困難であるという意見があった。
- ・ 医療資材の不足が依然としてあり、値上げされていることで費用が上昇している。N95 マスクの例外的使用を行うなどして医療資材不足を回避している。
- ・ マンパワーとして、対応する職員の不足、無症状感染の場合のクラスター感染防止策、施設改修や感染予防策のために人手が取られるなどの課題がある。
- ・ 入館制限のための検温やマスクチェックなどに時間を取られる、入院患者の面会制限について、ご家族の協力が難しいケースがある。
- ・ インフルエンザとの同時流行した場合、インフルエンザとの区別とその対応について、課題を挙げる声もあった。

<表 8: 感染防止対策(自由意見)>

施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の施設設備で安全が確保できないため、改修が必要となった。 ・ 発熱外来対応用にコンテナを使用しているが、建築基準法の関係で使用に不便な場所に設置しなければならない。災害時の対応のように特例措置をされれば、より効率的に対策等が行える ・ コロナ対策として、三密を回避したいが、建物の構造上難しい。営繕工事を行う必要があるが、資金的に困難である。 ・ 建物の構造上、感染患者の動線確保が難しい。
医療資材	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルコール、マスクの入荷遅延、アイソレーションガウン、PPE（個人防護具）不足 ・ N95 マスクが単回使用ではない。（厚生労働所省の例外的使用方法を実施） ・ 医療資材の急激な値上げ
人員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応する職員の不足 ・ 無症状感染者の場合のクラスター感染対応方法の模索 ・ 病棟内で基準寝具など他業者の対応で業務過多が生じている。 ・ 職員研修がビデオ研修となり、メンタルモデルの共有が出来ない。 ・ 職員に対して、感染予防策（外出等）を要望しているが、長期に亘っているため、効果の低下が懸念される。
入館制限対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検温、感染症流行地域からの来院者等の入館制限の対応に時間を要している。 ・ 入院患者の面会制限について、御家族の協力が難しいケースがある。
インフルエンザとの同時流行	<ul style="list-style-type: none"> ・ インフルエンザと新型コロナウイルス感染症との区別とその対応。